

名前：

私は、少なくとも今現在の世界状況の下では、新聞や雑誌が不要であるとは決して思わない。なぜなら、インターネットが新聞や雑誌の情報を包含するにはほど遠い状況だからである。

そもそも、与えられた文中には「インターネットでニュースを見ることができる」とあるが、この前提条件からしてほとんども成立していない。ある程度有名なニュースの、全員の共通認識に近いような内容は、確かにインターネットでも新聞、雑誌でも確認することは可能であろう。だが、自明なことではあるが同じニュースであっても各種メディアによってその表現の仕方は大きく異なる。そのうえ、インターネットでは手に入らず、新聞や雑誌でしか手に入らないような情報も数多くある（そもそも新聞、雑誌はニュースを伝えるだけの媒体ではない）。このような現状では、新聞、雑誌が不要だとは到底思うことができない。

では仮に、すべての新聞、雑誌の内容がそっくりそのままインターネット上で公開されるようになれば、これらのメディアは不要になるのだろうか。

私はそうも思わない。なぜなら、インターネットと新聞、雑誌の間には「開けたメディア」か「閉じたメディア」という違いがあるからである。

新聞、雑誌が、「ある一定の情報」を読者に与えるだけ（いくつかの例外はあるが）のメディアなのとは異なり、インターネットにおいては、例えばユーザーは気軽に関連項目の情報を得ることができる。これは長所であると同時に欠点でもある。「どんな情報を得たか」よりも「それを元に何を考えたか」が重要なことは多い。けれども、インターネットでは、無意識のうちに自分の処理能力を超えた量の情報を獲得してしまいがちである。そのため、場合によっては同じ内容でも新聞、雑誌の方が優れていることも多いのだ。

1800字